



## 1. 開催概要

- 展覧会名 スタニスラフ・リベンスキー ヤロスラヴァ・ブリフトヴァ 展
- 会 期 2016年10月15日(土)～2017年2月5日(日)
- 会 場 富山市ガラス美術館 展示室1・2・3(2、3階)
- 作 品 数 約50点
- 開場時間 午前9時30分から午後6時  
(金・土曜日は午後8時まで。入場は閉場の30分前まで)  
※初日のみ午後1時から開場
- 閉 場 日 第1、第3水曜日、年末年始(12月29日～1月3日)
- 観 覧 料 一般800円(600円) 大学生600円(400円)  
・ ( )内は前売り・20名以上の団体、高校生以下無料  
※1.前売りは一般のみ  
※2.本展観覧券で常設展もご覧いただけます
- 前売り券 取り扱い場所：アーツナビ、アスネットカウンター、  
TOYAMA キラリ総合案内(1F)
- 主 催 富山市ガラス美術館
- 後 援 外務省、チェコ共和国大使館、チェコセンター東京



チェコ共和国大使館



チェコセンター  
ČESKÉ CENTRUM



## 2. 展覧会概要

スタニスラフ・リベンスキー（1921 - 2002）とヤロスラヴァ・ブリフトヴァ（1924 - ）は、チェコ（チェコスロヴァキア）出身の作家たちです。彼らは、ガラスを用いて彫刻作品から建築に至るまで幅広い創作活動を展開してきました。

1955年から1956年にかけて、リベンスキーが描いたボウル状の少女の頭像をもとに、ブリフトヴァが粘土成形し、ガラスへと鑄造した作品《Headbowl》を完成させます。チェコ語で“ミスカ”とも呼ばれる美しく神秘的な彫刻は、初めて共同で制作した作品であり、二人による創作活動の礎となります。つまり、画家であるリベンスキーが描くかたちを、彫刻家ブリフトヴァが塑像によって立体化し、ガラスへと鑄造する独自の制作スタイルが確立されるのです。

初期にみられる、人物の頭をモチーフとした作品群は、ガラス内部に空間を配し、素材の透明性や光の透過を造形表現へと取り入れています。見る角度によって様々に表情を変化させる頭像は、人間の複雑な内面性をも見事に捉えています。その後、作家たちの造形表現は「光」と「空間」を取り入れ、次第に抽象化し、建築空間や大規模な彫刻へと広がりを見せます。彼らの作品は、光が宿ると美しい陰影が生まれ神聖な存在感を放ちます。そして、空間そのものが芸術作品へと一変します。作家たちの荘厳な作品世界は多くの人々を魅了し、その活動はチェコ内に留まることなく、世界各国で開催される国際博覧会や展覧会へと出品され、国際的にも高い評価を受けてきました。

本展では、リベンスキーの初期作品やドローイングの他、リベンスキーとブリフトヴァによる初期から晩期の代表的な彫刻、建築資料を一堂に公開し、二人の創作活動の足跡を辿ります。画家であるリベンスキー、彫刻家のブリフトヴァ。それぞれの感性が結びつき合うことによって構築される唯一無二の作品世界をご紹介します。



1 《ピラミッドの緑の眼》1993-95年

富山市ガラス美術館蔵 撮影：斎城卓

### 3. 展覧会のみどころ

#### I. リベンスキーとブリフトヴァによる初期作品

本展では 1955 年から 56 年にかけて、二人がはじめて共同で制作をした、彫刻作品《Headbowl》(ヘッドボウル)をはじめ、《Head I》(ヘッド I)や《Kiss》(キス)などの初期における彼らの代表的な彫刻作品を展示します。これらの作品群はガラスの内側や裏側に人物などが象られ、光を取り入れることによって、ガラス内部に像が浮かびあがります。

この後、さらにリベンスキーとブリフトヴァはガラスと光、空間の関係性を探求し、新たな造形表現の可能性を切り拓いていきます。

#### II. リベンスキーのデザインとドローイング

スタニスラフ・リベンスキーが 1940 年代から 60 年代にかけてデザインをしたガラス器や、ガラス彫刻のために描いたドローイング、油絵などを紹介し、リベンスキーの画家やデザイナーとしての側面も併せてご紹介します。

#### III. リベンスキーとブリフトヴァによる建築空間のしごと

二人は、彫刻作品だけでなく公共空間や建築のための作品も数多く制作しました。

その中でも、《The River of Life》(生命の川)は 1970 年、大阪万博のチェコスロバキア・パビリオンへ設置された作品です。本展では構想段階においてリベンスキーが描いた貴重な絵画 4 点を展示します。

また、大阪万博での出品を機に、日本国内で高い評価を得た作家たちは、日本の建築空間内にくつつかの作品を設置しました。その中で、紀尾井ホール(東京)の《Encounter》(出会い)やアクトシティ浜松(静岡)の《HARMONY I》《HARMONY III》について、リベンスキーのドローイング、資料、完成写真を展示し、彼らの制作・設置の工程を明らかにしながら建築空間における彼らの造形表現をみていきます。

#### IV. リベンスキーとブリフトヴァの彫刻「光の空間」をみる

1900 年代に入ると、リベンスキーとブリフトヴァの造形表現は、円熟期を迎えます。光の透過によって巨大な眼が現れる 3m もの彫刻《Green Eye of the Pyramid》(ピラミッドの緑の眼)、また「光の空間」をガラスによって造形化した《Space IV》(空間 IV)、《Arcus》(アーチ雲)など、ガラスと光、空間に対する造形感覚をさらに開花させ、二人は豊かな表現を展開していきます。

そして、晩期と位置づけられる「Black Angel」シリーズにおいては、彼らの死や生に対するまなざしが、ドローイングや造形表現へと現れていきます。

本展では I から IV のように彼らの創作活動の足跡を辿りながら、二人が創りだしてきた美しく重厚な作品世界を紹介します。

#### 4. 作家プロフィール

##### スタニスラフ・リベンスキー

- 1921年 旧チェコ共和国ムニホヴォ・フラジシチェのセゼミツェに生まれる。
- 1937-39年 ノヴィー・ボルのガラス専門学校に通う。ズデーテン地方がナチスドイツに占領された1938年の秋以降、ジェレズニー・プロトのガラス学校へ移動する。
- 1939-44年 プラハ美術工芸大学のヨゼフ・ホレチェック教授のもとで学ぶ。
- 1945-54年 ノヴィー・ボルのガラス専門学校でレクチャーを行いながら、ガラス作品のデザイナーとして活動する。
- 1949-50年 プラハ美術工芸大学のヨゼフ・カプリツキー教授のもとで学ぶ。
- 1954-63年 ジェレズニー・プロトガラス学校の校長に就任。
- 1963-87年 プラハ美術工芸大学のガラス科の主任教授に就任。

##### ヤロスラヴァ・ブリフトヴァ

- 1924年 旧チェコ共和国のジェレズニー・プロトに生まれる。
- 1936-44年 トゥルノフのギムナジウム（大学進学を目指すための学校）に通う。
- 1945-51年 プラハ美術工芸大学のカレル・スティルプル教授のもとで学ぶ。
- 1947-50年 プラハ美術大学のヤン・ラウダ教授のもとで学ぶ。
- 1950-84年 ジェレズニー・プロトガラス社で、1950年に自身の設立した「建築用ガラス」部門にて、デザイナーとして勤める。
- 1954-02年 スタニスラフ・リベンスキーとヤロスラヴァ・ブリフトヴァが共同制作を行う。
- 1984-02年 ジェレズニー・プロトに個人工房を設立する。
- 2002年 2月24日、スタニスラフ・リベンスキー死去。享年80歳。  
現在、ヤロスラヴァ・ブリフトヴァはジェレズニー・プロト在住。

2 《傾斜》2000年

富山市ガラス美術館蔵 撮影：齋城卓



## 5. 展覧会歴

- 1958年 「Czechoslovak Pavilion, World Exposition EXPO 58」 ブリュッセル, ベルギー
- 1959年 「Glass 1959. A Special Exhibition of International Contemporary Glass」  
コーニングガラス美術館, コーニング, ニューヨーク州, アメリカ合衆国
- 1962年 個展 「S. Libenský a J. Brychtová」 Galerie Ceskoslovensky spisovatel, プラハ,  
チェコスロバキア共和国
- 1964年 「Glass. Czechoslovak and Italy」 アメリカン・クラフト・カウンシル現代工芸美術館,  
ニューヨーク, ニューヨーク州/トレド美術館, トレド, オハイオ州, アメリカ合衆国
- 1967年 「Czechoslovak Pavillon, World Exposition EXPO 67」 モントリオール, カナダ
- 1970年 「Czechoslovak Pavilion, World Exposition EXPO' 70」 大阪, 日本
- 1977年 「Kunstsammlungen der Veste Coburg」 コーブルク城美術館, コーブルク, ドイツ
- 1979年 「New Glass: A Worldwide Survey」 コーニングガラス美術館, コーニング, ニューヨーク州,  
アメリカ合衆国
- 1980年 「現代ガラス—ヨーロッパ、日本」 京都国立近代美術館, 京都, 日本  
「Licht, Form, Gestalt. Obejkte aus geschliffenen Glas」 デュッセルドルフ美術館,
- 1981年 「Czechoslovakian Glass 1350 - 1980」 コーニングガラス美術館, コーニング,  
ニューヨーク州, アメリカ合衆国
- 1982年 「World Glass Now '82」 北海道立近代美術館, 北海道, 日本 (- '85, -' 91)
- 1984年 個展 「Libenský - Brychtová, Ivan Mareš, Ivana Šolcová」 モーリン・リトルトン・ギャラリー,  
ワシントン D.C., アメリカ合衆国
- 1989年 「Verre de Bohême 1400 - 1989」 パリ装飾美術館, パリ, フランス
- 1990年 個展 「Libenský - Brychtová, Ivan Mareš, Ivana Šolcová」 モーリン・リトルトン・ギャラリー,  
ワシントン D.C., アメリカ合衆国
- 1991年 「コンテンポラリーグラス チェコスロヴァキア6人の巨匠展」 横浜美術館, 神奈川, 日本
- 1993年 個展 「Libenský - Brychtová. Object of Illusion - New Glass Sculpture」 ヘラーギャラリー,  
ニューヨーク, ニューヨーク州, アメリカ合衆国
- 1994年 個展 「Libenský - Brychtová. A 40 Year Collaboration in Glass」 コーニングガラス美術館,  
コーニング, ニューヨーク州, アメリカ合衆国  
「Glass Art Now Exhibition 1994」 横浜美術館, 神奈川, 日本  
「拡張するガラス：美の表現者たち」 横浜美術館, 神奈川, 日本
- 2000年 「光の彫刻- チェコの現代ガラス彫刻」 飛騨高山美術館, 岐阜, 日本(広島と福岡巡回)
- 2002年 個展 「Stanislav Libenský - kresby」 Galerie My, ヤプロネツ・ナド・ニソウ, チェコ共和国

## 6. 主なパブリックコレクション

アムステルダム国立美術館（アムステルダム、オランダ）；アヌシー城博物館（アヌシー、フランス）；アルスター博物館（ベルファスト、北アイルランド）；チェコ国立モラヴィア・ギャラリー（ブルノ、チェコ）；ミント美術館（シャーロット、ノースカロライナ州、アメリカ）、コーブルク城美術館（コーブルク、ドイツ）；コーニング・ガラス美術館（コーニング、ニューヨーク州、アメリカ）；エーランドルフ市立ヘントリッヒ・ガラス美術館（デュッセルドルフ、ドイツ）；Museum voor Sierkunst（アントワープ、ベルギー）；ハンブルク美術工芸博物館（ハンブルク、ドイツ）；インディアナポリス美術館（インディアナポリス、アメリカ）；ガラス・ジュエリー美術館（ヤプロネツ・ナド・ニソウ、チェコ）；京都国立近代美術館（京都、日本）；ローザンヌ装飾美術館（ローザンヌ、スイス）；北ボヘミア美術館（リベツ、チェコ）；ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館（ロンドン、イギリス）；ロサンゼルス・カウンティ美術館（ロサンゼルス、カリフォルニア州、アメリカ）；リヨン美術館（リヨン、フランス）；マンチェスター市立美術館（マンチェスター、イギリス）；メトロポリタン美術館（ニューヨーク、ニューヨーク州、アメリカ）；クライスラー美術館（ノーフォーク、ヴァージニア州、アメリカ）；東ボヘミア博物館（パルドウビツェ、チェコ）；パリ装飾芸術美術館（パリ、フランス）；西オーストラリア州立美術館（パース、オーストラリア）；プラハ国立美術工芸博物館（プラハ、チェコ）；ナショナルギャラリー、現代アートコレクション（プラハ、チェコ）；フィンランドガラス美術館（リーヒマキ、フィンランド）；陶芸博物館（ルーアン、フランス）；北海道立近代美術館（札幌、日本）；応用芸術・科学博物館（シドニー、オーストラリア）；ヒエツカ美術館（タンペレ、フィンランド）；東京国立近代美術館（東京、日本）；トレド美術館（トレド、オハイオ州、アメリカ）；富山市ガラス美術館（富山、日本）；県立美術館（バレンシア、スペイン）；横浜美術館（横浜、日本）；ベルリーヴ美術館（チューリヒ、スイス）

## 7. 関連プログラム

### 1. 講演会

#### ①10月16日(日)

ミラン・フラヴェシュ (プラハ国立美術工芸博物館、ガラス・陶磁器コレクション統括)  
※逐次通訳つき

#### ②11月26日(土)

仲摩マサ枝 (株式会社ギャラリー仲摩)  
時間：各回午後2時より開催 (45分程度)  
会場：富山市ガラス美術館 レクチャールーム (6階)  
定員：先着60名

### 2. 学芸員によるギャラリートーク

日時 2016年10月22日(土)、11月5日(土)、11月19日(土)、12月3日(土)、  
12月17日(土)

2017年1月7日(土)、1月21日(土)、2月4日(土)

※各回午後2時より開催

会場 富山市ガラス美術館 展示室1・2・3 (2、3階)

※関連プログラムは事前申込み不要です。参加は無料ですが、本展の観覧券の半券が必要となります。

また、関連プログラムの開催日時は都合により変更となる場合があります。詳細はHPをご覧ください。

HP：<http://toyama-glass-art-museum.jp/>

## 8. 出版刊行物

展覧会カタログ「スタニスラフ・リベンスキー ヤロスラヴァ・ブリフトヴァ」展  
定価 1,800円(税込み)

刊行日 2016年10月15日(土) 刊行(予定)

## 9. 広報用画像

画像1～6を広報用に提供いたします。

ご希望の方は下記の使用条件をご承諾の上、お申し込みください。

《使用条件》

○写真の使用は本展のご紹介のみご利用いただけます。また、写真の2次使用はご遠慮ください。

○写真には、別紙のクレジットを必ず入れてください。

○トリミングはご遠慮ください。画像が切れたりキャプション等の文字がかぶったりしないよう  
レイアウトにご配慮ください。

○校正ゲラ等の段階で情報の確認をさせていただきます。

○掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVDなどをご寄贈ください。



3 《ピラミッドの緑の眼》1993年

富山市ガラス美術館蔵 撮影：齋城卓



4 《スペクトル》1996年

富山市ガラス美術館蔵 撮影：齋城卓



5 《Open Window》1992-2007年

作家蔵



6 《空間Ⅳ》1994年

富山市ガラス美術館蔵 撮影：齋城卓